

事業目的 卸売市場の機能を生かしながら、消費需要に応じた計画的な生産・流通・販売を行い、農福連携の収益力向上を図るため、アプリ等を活用して生産から販売までのプロセスを管理する流通体制を構築することを目的とする。

事業の必要性

- 障がい者就労施設では、販売先の確保や販売の方法等に苦慮する事例もでてきており、需要に応じてタイムリーに出荷・管理する仕組みの構築が必要。
- アプリ等を活用した市場の出入荷情報の見える化の実証が必要。
- 障がい者就労施設・小規模家族農業者等が生産する少量多品目の農産物について、出荷・販売できず取り残されることがないように、アプリ等を活用した共同配送の仕組みの構築が必要。

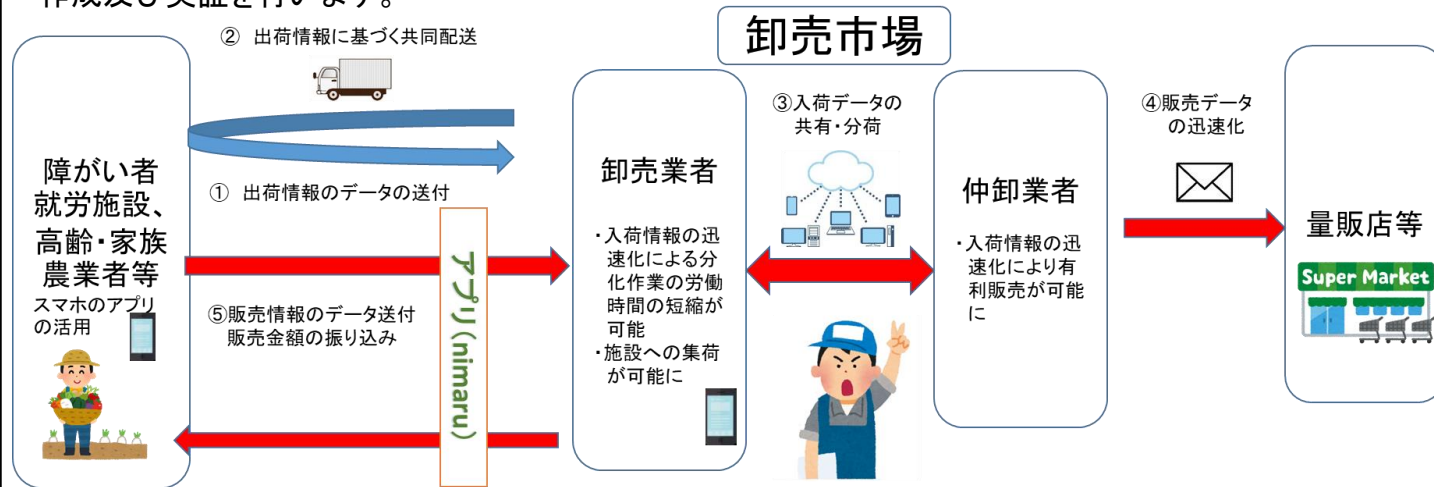


事業の内容

①卸売市場スマート流通体制・モデル実証事業

県内の地方卸売市場(3市場)において、農福連携で生産された農産物等を需要に応じた計画的な生産とともに、ICTによるデータを活用して生産から販売までのプロセスを管理する流通体制の構築に向け、アプリ等を活用して市場の出入荷情報の見える化と共同配送の仕組み構築に向けた検討・実証を行います。

市場や消費者が求める売れ筋の農産物を効率良く生産するため、「年間を通じた生産計画モデル」の作成及び実証を行います。



②卸売市場スマート流通体制構築事業

構築した流通体制の普及・拡大を図るため、実証・検証で得られた成果等を県内の福祉事業所や農業経営体、市場関係事業者幅広く情報発信します。

事業の効果

障がい者就労施設等と卸売市場が連携して、アプリを活用した入出荷情報の見える化や効率的な共同配送システムを構築することで、青果物を需要に応じてタイムリーに出荷し、有利に販売する取り組みが加速化される。